

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100212		
法人名	(有)タックス		
事業所名	グループホーム花水月		
所在地	宮城県遠田郡美里町字叔廻前22-3		
自己評価作成日	令和 5年 8月 17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 10月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.職員は高い専門知識と経験を持っています。ご利用者の個別のニーズを理解し、適切なサポートを提供するために日々努めています。</p> <p>2.ご利用者が家庭的な雰囲気の中で快適に過ごせるように心掛けています。ご利用者同士や職員とのコミュニケーションを大切にし、信頼と絆を築くお手伝いをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>白鳥が羽を休める鳴瀬川の北側に沿った涌谷三本木線に面した所に建つホームは、一般住宅を改装した木造二階建てである。一階で入居者と職員が一つの家庭のように過ごしている。隣接する「おひさま広場」が入居者や地域の方の交流の場となっている。28年前に宅老所としてスタートし、ホーム開設時に掲げた理念「笑顔、元気を継続」他を継続しており、地域に根ざしたグループホームとして受け入れられている。職員は傾聴に心掛け、入居者が心身共に安定した生活が送れる様努めている。目標達成計画の「運営推進会議での意見をもらう」は、返信用封筒を同封し、回収する事や対面会議再開で直接聞く事で達成できた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成しいつでも確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、十分な説明のもとに同意を得ている。また疑問や不安なことに対しても分かりやすく説明し理解してもらえるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者、ご家族とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くように心掛けている。	計画書の説明時や利用料金支払い時に聞いている。通院の依頼や受診報告等の要望がある。職員の異動はあまりなく、話しやすい関係にある。「楽しそうにしているので、よろしく願います」等の言葉が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者と職員は意見が言い合える関係性ができている。又、日々の申し送りや会議の場でも意見を出し合っている。	日常的に意見を聞いている。休暇は柔軟に対応している。職員の意見により食事介助の担当を早番か遅番にするか調整した。研修受講は出勤扱いで、費用は法人が全額負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労務状況を把握し行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や一人ひとりの段階に応じた研修に参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者入居状況や入居利用者について意見交換している。又、運営推進会議にも参加していただいている。	法人の看護師より感染について勉強した。同法人の事業所に地元出身のプロ歌手のショーを見に出かけ、職員間の交流あった。宮城県認知症介護指導者の方に運営推進員として定期的に意見を貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などを訪問し、情報収集するとともにご本人、ご家族の希望を聴き取りし関係作りに努めている。又、入所前にホームの見学を可能な限りお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの困っていること、不安に思っていることなど何でも気軽に話して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を確認した上で実行するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に生活を意識し、共に生活させて頂いている。又、職員だけでなく、利用者様同士も支え合いを大切にしている。支援をする側、される側という意識を持たず、お互いが協働し生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と意見交換、情報を共有し、同じ思いで支えていけるように取り組んでいる。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回のドライブで馴染みのある場所を訪ねたりしている。又感染状況をみながら出来る限り面会できるように努めている。	洗濯物や新聞畳みを継続支援している。三本木のひまわりや松山の秋桜等が人気で、馴染みの場所にも立ち寄り喜ばれている。近所の方の来訪にうなずく姿が見られた。2か月毎に理容室の方も来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は見守りの中、利用者様同士の関係性を把握し、ご利用者同士が関わり、支え合える関係がもてるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の意見を確認した上で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族、関係者の方から希望、意向を聴き取り意見を尊重しながら本人の訴えを見逃す事のないように気配りする。	意思表示が困難な入居者が多いが、言動の観察や何気ない入居者同士の会話、直接聞いた事等から汲み取っている。良く聴く事を心掛け、得た意向は家族や職員と共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族よりこれまでの生活状況、経歴や生活歴を伺い理解した上で対応を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの状況を常に把握して、受診記録ノート、介護記録等で変化を見逃すことのないように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に希望や意見を確認して現状把握したうえで意見を聴取してサービスが適切であるかを検討する。月に1回モニタリングをして介護計画に反映する。	日々の観察を土台に、変化が有る時は都度見直す。無ければ継続としている。理念の「元気の継続」に基づいた軽体操やレク活動参加を入れた。褥瘡ができた方に医師の指示で体位交換を入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、介護記録、受診記録ノートで利用者様の状況を確認している。状況が変化した時は再アセスメントを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの状況に合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加を取り入れ、地域の方と交流を持つようにしている。又、行事でボランティアの方に来ていただいている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を重視し家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。	全員がかかりつけ医を継続し、緊急時は涌谷町国保病院等である。通院は家族や職員が付き添う。年1回の歯科医による検診があり、往診も可能である。近隣の同法人事業所に看護師がいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に努めている。状態変化等の場合はかかりつけ医に電話し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行っている。退院時には退院後の対応や注意事項について細やかに情報を頂くようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの指針を文書化し掲示しホームでの出来ない部分を説明している。	検討するも看取りは難しいとし、病院での終末期対応を継続としている。入居時に「終末期ケア対応方針」を説明し家族の意向を確認している。必要時は医師が入院を判断し、家族に説明をする。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり急変時に速やかに対応できるように備えている。避難訓練時にAEDの使用方法的確認を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。又、水害時の避難場所までの経路の確認等を行っている。	日中と夜間の火災訓練をそれぞれ行った。防災協力員である住民は、誘導や見学で参加した。業者による消火指導や備蓄品の点検も行った。寝たきりの方の避難誘導の方法が確認出来た等の反省があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格等を把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	名字や名前に「さん」を付けて呼び掛ける。「されて嫌な事はしない」に気をつけている。入居者には、親しさの中にも礼儀を以って対応している。「介護現場で気を付けるべきプライバシー保護」の研修を行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話で思いや希望を探ったり、少しの事でも自己決定できるような場面を設けるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせてその日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、清潔感にも気をつけ支援している。服装等は自分で選んでもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族やご近所の方が持ってきてくれた野菜の皮むきや配膳、下膳等を手伝って頂いている。	ある食材で職員が作り、法人栄養士の助言がある。煮物や漬物のコツを教わる事がある。法人デイの利用者とおひさま広場で焼きそば等を作って食べたり、ホーム内でお好み焼きを楽しんだ。外食に行く事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作る際にはバランス、彩に配慮し、個々に合わせた食事量、形態等を把握している。1人ひとりの食事、水分量を把握できるようにしている。法人内の栄養士に年2回献立を提出し意見を聞いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケア、義歯のケアを支援し状況に合わせた清潔保持に努めている。年に1回歯科検診を行っており、治療が必要な方は往診にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの状態に合わせた支援の方法を話し合い、尿取りパットやオムツの使用についても随時検討している。自尊心を傷つけないように配慮しながら対応している。	自力で排泄する方やポータブルトイレを利用する方、日中夜間それぞれの支援をしている。失敗時は耳元で「お部屋に行きましょうか」等の声掛けの工夫をしている。乳製品を取り入れ排便につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれている食材の利用、水分摂取、乳製品を取り入れ便秘予防に努めている。必要に応じて病院から下剤を処方してもらうなど個々の応じた支援を心掛けている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の体調や希望に合わせて、週2回を基本に個々に沿った支援をしている。	暑い日はシャワー浴を追加したり、体調不良時は次の日に延ばす事もある。湯温は好みに合わせ、浴槽内に滑り止めマットや踏み台等入れ、転倒防止をしている。室内は暖かく、若い頃の話を楽しめる機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調を考慮し、居室で休んで頂く時間も大切にしている。居室の温湿度を管理し気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの受診記録ノートがあり受診後職員は必ず目を通すようにしている。薬ケースには薬表を貼り付けいつでも確認できるようにしている。服薬時は飲み込みまで確認し飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意思、体調を考慮し負担のかからない活動をしていただいている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望、ご家族の協力を得ながら対応している。月1回のドライブではご利用者に行きたい所を聞いて出かけている。	桜や紫陽花等の花を見るドライブを好む方が多く、菜の花畑でアイスクリームを食べた。長沼や松島、地元高校生の演奏会等に出掛けた。家族と外食した方もいる。おひさま広場で日光浴、草花の観察等もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対応していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から家族や友人等への電話をしたいとのご希望があれば支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただくために、職員と共同で作成した四季の作品を飾っている。温湿度を管理し快適にすごしていただけるようにしている。	ラジオ体操の音楽や談笑等が聞こえるホールの窓からは、職員が植えた満開の菊が見え、軒下には干し柿が吊るされている。室内に入居者作の折紙のトンぼやコスモスが飾られ、入居者が掃き掃除をする事がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思で自由にホールや居室で過ごしていただいている。又ホールでは気の合った者同士が過ごせるように席の配置をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な方にはテレビやラジカセを置き、写真や思い出の品を自由に飾るなどし、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	職員の作った表札がある。備え付はタンスやベッド、布団等である。自作のぬり絵や金運アップの紙、新聞の切り抜き等が貼ってあり、職員が手伝う事もある。入居者は住み慣れた馴染みの空間で寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している。		